

Japan
Audio
Society

JAS

journal

平成24年9月1日発行
通巻417号
発行 日本オーディオ協会

2012

Vol.52 No.5

9

鹿井 信雄さんを偲んで

校條 亮治

～協会新組織について～

オーディオ市場の活性化を目指して

中村 和彦

録音機器・技術普及委員会

大島 洋

新組織「技術会議」の設立趣旨と活動

中西 康之

音のサロン委員会（旧專業部会）

高松 重治

連載：「試聴室探訪記」～谷口ともりの、魅惑のパノラマ写真の世界～第13回
原口博行氏のリスニングルーム訪問 谷口ともり 森 芳久 石井 伸一郎

JAS インフォメーション

「オーディオ・ホームシアター展」(音展)開催案内

9月度理事会・第9回運営会議報告



一般社団法人

日本オーディオ協会



12月6日
音の日



(通巻 417号)

2012 Vol.52 No.5 (9月号)

発行人：校條 亮治

一般社団法人 日本オーディオ協会

〒101-0045 東京都中央区築地 2-8-9

電話：03-3546-1206 FAX：03-3546-1207

Internet URL

<http://www.jas-audio.or.jp>

3 鹿井 信雄さんを偲んで 会長 校條 亮治

～ 協会新組織について ～

4 オーディオ市場の活性化を目指して 中村 和彦

6 録音機器・技術普及委員会 大島 洋

8 新組織「技術会議」の設立趣旨と活動 中西 康之

10 音のサロン委員会(旧專業部会) 高松 重治

連載：「試聴室探訪記」第13回

14 ～谷口とものり、魅惑のパノラマ写真の世界～

原口博行氏のリスニングルーム訪問

谷口とものり 森 芳久 石井 伸一郎

JAS インフォメーション

18 「オーディオ・ホームシアター展」(音展)開催案内

28 9月度理事会・第9回運営会議報告

9月号をお届けするにあたって

日本オーディオ協会の中期事業計画に沿って委員会組織の再編が行われ、新年度の活動が始まっています。今月号では各委員会・会議の担当役員の方々に、オーディオ活性化についてのお考えや活動方針について執筆いただきました。

間もなく秋葉原において4回目となる「オーディオ・ホームシアター展」が2012年10月19日(金)～10月21日(日)の3日間、秋葉原UDX・富士ソフトアキバプラザ・秋葉原電気街他で開催されます。皆様のご来場をお待ちしています。特設ホームページ <http://www.oto10.jp/> で最新の情報をご覧ください。

試聴室探訪記は、石井伸一郎さんが設計された伊豆高原の原口邸を訪ねました。試聴室探訪記では、自薦、他薦を問わず皆様からの取材希望をお待ちしています。編集事務局へご一報下さい。

連載「テープ録音機物語」は今月号も休載させていただきます。

編集事務局

編集委員

(委員長) 君塚 雅憲

(委員) 穴澤 健明・伊藤 昭彦((株)ディ-アンドエムホールディングス)・稲生 眞((株)永田音響設計)・

大林 國彦・春井 正徳(パナソニック(株))・川村 克己(パイオニア(株))・高松 重治(アキュフェーズ(株))・

濱崎 公男(日本放送協会)・藤本 正熙・森 芳久・山崎 芳男(早稲田大学)

鹿井 信雄 前会長を偲んで



前会長（現顧問）の鹿井 信雄さんが、2012年8月3日、多臓器不全のため、逝去されました（享年81歳）。

一昨年、不幸にも病に倒れられましたが、復帰に向け順調に回復されているとの報でしたので、ただ驚きと残念でなりません。

私は、縁あって5年前に協会に携わることになり、鹿井さんにお付き合いを頂くことになりました。私のような門外漢に後事を託し、ご当人も気が気ではなかったと思います。

僭越ながら私の鹿井感を申し上げれば、誠に懐が深く、また幅の広い方であったと思います。所属されたソニー株式会社での輝かしい経歴が物語っているように「日本初のトランジスタラジオの開発」に携わり、一方でCDや8ミリビデオなどを主力ビジネスに育て上げられた手腕は、優秀な技術者のみならず、企業人として、また経営者として卓越した方であったといえます。

開発からサービス事業まで誠に幅広くトップを担うなど八面六臂の活躍であったと聞いております。ソニー株式会社では代表取締役副社長を、アイワ株式会社では代表取締役会長を歴任されたことは当然であったといえます。

一方、日本オーディオ協会会長は2002年から08年まで6年間にわたり務められました。この時期の国内オーディオ業界は極めて難しい時代であり、デジタル化、小型化の急速な進展により、生活スタイル

と価値観が一変した時代です。そんな中で現在を予見するが如く、第三世代オーディオを強く認識されていました。しかし、その先見性は、国内企業では具現化されず、忸怩たる思いであったと思います。

常に先を見るという点では、技術者にめずらしく「日本ランチェスター協会」という戦略・マーケティングの本山の役員を務められたことでも明らかです。もう少し早くお付き合いを頂いていたならば、一緒に改革のお手伝いが出来たと思うところです。

思いは尽きません。鹿井さん天国でゆっくりと好きな音楽を楽しんでください。安らかなご冥福をお祈り致します。

（日本オーディオ協会 会長 校條 亮治）

鹿井 信雄さんのご経歴

鹿井さんは、東北大学工学部を卒業後、1955年に東京通信工業株式会社（現ソニー）に入社。日本初のトランジスタラジオ「TR-55」の設計に中心メンバーとして携わられました。

1970年、アイワ株式会社に転籍し、73年取締役、77年常務取締役に就任し、同社の再建に尽力されました（1994年代表取締役会長に就任）。

1983年、ソニー株式会社に戻られ、1984年取締役、86年常務、87年専務、90年代表取締役副社長に就任され、ソニーの基幹事業を幅広く担当されました。CD、8ミリビデオなど数多くの主力ビジネスを育て上げられました。

日本電子機械工業会（現JEITA）外国系半導体ユーザー協議会会長としての功績により、93年に内閣総理大臣より「貿易表彰」を受けられています。

1984年に社団法人日本オーディオ協会理事にご就任、1995年副会長、2002年から2008年まで会長を務め、よい音で聴くライフスタイルの普及・啓発に尽力され、協会の維持と発展に貢献されました。

オーディオ市場の活性化を目指して

デジタルホームシアター普及委員会 & 放送・通信等・新音源検討委員会担当 副会長

パナソニック株式会社

中村 和彦

この度、日本オーディオ協会はオーディオ文化の更なる発展と国内オーディオ市場の活性化を目指して組織改編を実施することになりましたが、その新体制の中で、「デジタルホームシアター普及委員会」及び「放送・通信等・新音源検討委員会」を担当させて頂くことになりました。新体制のスタートにあたり、オーディオ文化の更なる発展と、オーディオ市場の活性化について、本紙面をお借りして考える所を述べさせて頂きたいと存じます。

まず、国内オーディオ市場が過去どのように推移をしてきたか、今一度振り返ってみたいと思います。

90年代までのオーディオ市場は、音楽ソースがカセットテープやCD、MDといったパッケージメディアの形を有していた為、そのパッケージメディアの形態変化に対応することで安定的な需要を確保して来ました。しかしながら2000年代に入り、パソコンを通じて入手する音楽ソースが普及するにつれ、家庭内ではパソコンやその音源に対応したスピーカーで音楽を聴き、屋外ではそのパソコンに対応したポータブルのデジタルオーディオプレーヤーとヘッドホンで音楽を聴くユーザーが増加し、従来型のオーディオ商品の市場は激減してしまいました。但し、それらのパソコンやデジタルオーディオプレーヤー等の、新しい音楽の試聴スタイルを含めたオーディオ需要は決して減少しておらず、携帯電話・スマートフォンの普及によりモバイル環境で音楽を聴くユーザー層まで含めると、むしろ全体としてのオーディオ市場は成長しているということが出来ます。さらには、ネットワークを経由した音楽配信においても、圧縮音源のみならず、高音質音源での配信の拡大など、新たな広がりが見られます。

問題は、これら新しい音楽文化とも言える潮流に、日本のオーディオ業界が充分に対応できていないことであり、我々はこれを逆にチャンスととらえ、これらの新しいユーザー層に対して、音楽をさらにより良い音で楽しむことの感動を如何に効果的に伝えられるか、その成否に日本のオーディオ業界の将来がかかっているという認識に立ち、その新潮流に業界を挙げて取り組んで行くべきであると考えております。

また、オーディオ市場の重要な一端を担うホームシアター市場に関しては、残念ながら限られたユーザー層のみに臨場感あふれる音楽や映画をお楽しみいただいている状況にあります。国内のホームシアターの販売台数をテレビの販売台数と比較すると、2011年度ではテレビの2%程度であり、5年前と比較するとその比率は半分程度に減っております。一方で、2011年に国内で薄型テレビを購入された方への音の対する満足度を聞いた調査結果によりますと、薄型テレビ購入者の2割近くの方がテレビの音に満足しておらず、テレビ番組をもっと良い音で視聴したいと期待されております。またこの様な方々の比率は薄型テレビの普及に連れて、5年前よりも大きく増えております。

上述しました新しい音楽文化への対応と同様に、我々は薄型テレビユーザーへより良い音でテレビを視聴することの感動を如何に効果的に伝えられるか、業界を挙げて取り組んで行くことで、オーディオ文化の発展に貢献してゆくべきであると考えます。

ホームシアターに関しましては、今後も音楽・映像ソースの高画質化・高音質化や映像機器の薄型化等、技術的な革新が予想されますが、昨年までの地上デジタル放送への移行過程で、ソースの高画質化・高音質化や映像機器の薄型化が大きく進んだにもかかわらず、ホームシアターの需要が伸びなかったという事実に対しての素直な反省を踏まえた上で、ユーザー視点で今後の対応を考えて行くこと、音楽をさらに良い音で楽しむ、映像をさらに良い音と共に楽しむ、といった生活シーンを幅広いユーザーにわかりやすくご紹介してゆくことが、オーディオ文化の発展とオーディオ市場の活性化につながるものと認識しております。

以上、簡単ではありますが、新体制のスタートに当たっての思いの一端を述べさせていただきました。日本オーディオ協会の活動と致しましても、各種の展示会・イベント等を通じて、サラウンド放送の充実や高音質配信の普及等、新音源によるオーディオ市場の活性化にも貢献して参る所存でございますので、皆様のご指導ご鞭撻、何卒よろしくお願い申し上げます。

録音機器・技術普及委員会

録音機器・技術普及委員会担当 理事

ティアック株式会社 音響機器事業部

大島 洋

JAS 創立 60 周年に心よりお祝い申し上げます。

この度「録音機器・技術普及委員会」の担当理事を拝命致しましたティアック株式会社の大島でございます。

さて、生録委員会が今年から「録音機器・技術普及委員会」に名称が変わりましたが、今まで生録委員会が行ってきた活動を更に充実すべく、よりアグレッシブに録音機器や録音技術の啓蒙活動を行って参る所存です。

平成 21 年度からスタートした生録委員会は、3 年間に 5 回の音楽録音会を開催し、800 名以上のリスナーと録音者に啓発活動を行ってきました。

コンサート等における健全な録音市場の構築や、録音技術を磨くセミナーの実施、録音ビギナーへの機器貸出し、オーディオ&ホームシアター展での録音機器メーカーブース展示など、数々の普及活動に努めてきた結果、今では IC レコーダー分類として 126 万台もの出荷実績となっております。また、このうちの高音質タイプ (fs 96KHz 以上の PCM レコーダー) は 25 万台にもなり、大きな市場に育ってきております。

このような PCM レコーダー市場の拡大をさらに後押しするためにも、メーカー単独では成し得ない日本オーディオ協会ならではの手法により市場拡大を推進すべく、録音機器・技術普及委員会のあるべき姿を再考し、具体的な活動に結び付けていきたいと考えております。

下記に本委員会活動についての方針や指針、また委員会運営の抱負等を述べさせていただきますので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

1. ライブレコーディング体験会の実施 (2012 年 10 月 21 日開催予定)

今年のオーディオ&ホームシアター展では、「ライブレコーディング体験会」と銘打って録音会を開催します。今回のターゲットはいわゆるマニア層ではなく「録音初心者」に重点を置いた構成にしました。例えば「お父さん。お母さん」が我が子の演奏を録音するというシチュエーションを考えると「録音」はまだハードルが高い感は否めません。そこで今回、敢えて録音マニアではない一般ユーザーにターゲットを絞り、パーソナルビデオでは録ることが難しい高音質録音を体験していただくことで、パーソナル録音の素晴らしさを知って頂こうと企画したものです。そのような背景から今回の演奏も、中学・高校の部活動での人気上昇し、最近ファンが急増中のプラスバンド演奏でお楽しみ頂くことにしました。持ち込みの録音機材については、基本的には PCM レコーダー本体のみとし、外部マイクの使用を制限するというように録音初心者向けに特化したレコーディングの「体験会」としました。

今まで行ってきた録音会は、どうしても録音マニア層向けの傾向が強かったこともあり、趣向が変わった今回の初心者向けレコーディング体験会の評価は如何様になるのか若干不安ではありますが、裾野を広げるという意味では必ずや将来に向けて良い方向に向かうものと信じております。

2. 録音会（録音マニア向け）の開催

今年のオーディオ&ホームシアター展で開催される「ライブレコーディング体験会」は、上述のとおり録音初心者向けの内容であるため、今まで過去に参加されてきた所謂「録音マニア層」から見ると、この体験会は物足りないとお感じになるのではないのでしょうか。

そこで、このようなユーザーに対する録音の場の提供をオーディオ&ホームシアター展ではなく、他の機会に設けることを企画したいと考えております。これらのユーザーは録音に対するこだわりが強いため、場所や日時、奏者、録音環境等を鑑みてより良い録音会が開催出来るよう準備を進めたといと考えております。しかしながら、少人数で行う有料イベントとなる可能性が高いため、事業としてのゼロバランス化も考えると、開催が難しい状況ではありますが、知恵を絞っていかなる可能性も視野に入れて準備したいと思えます。

3. 技術セミナーの実施

例えば、次世代録音フォーマットが台頭してくる可能性は否めません。思い起こせばアナログテープからデジタルテープ、CD、MDへと変遷してきた録音メディアは、今後ハイレゾ音源（192KHz、384KHzやDSD等）と呼ばれる高音質コンテンツに対応する新しいストレージ（HDD、SD、CF等）に形を変化させて、今後ますます一般市場に広がっていくものと思われます。このように、録音機（フォーマット）の進化は日進月歩で進化しています。一方録音技術については、録音機器の進化とは比例しておらず、録音技術向上のノウハウを取得する場が殆ど無い状況に見えます。そこで、録音技術向上のためのセミナーを上記で案内した録音会の中に併設することにより、録音技術向上に寄与出来るものと考えます。

4. 音楽専門誌や楽器専門誌との提携

PCMレコーダーはまだまだ一般的には知られていない存在です。録音の楽しさや素晴らしさを一人でも多く伝えるために今回ライブレコーディング体験会を開催する訳ですが、この参加者は音楽専門誌や楽器専門誌の読者と同じ層なのではないかと考えております。新たなユーザー発掘のためにも、今後は音楽専門誌や楽器専門誌と提携し、「音を録る」ことの啓蒙活動を行って参ります。

これらの活動を行うことによって健全な録音市場の構築に寄与出来るものと考えております。皆様のご協力を何卒よろしくお願い致します。

新組織「技術会議」の設立趣旨と活動

技術会議担当 理事

三菱電機株式会社

中西 康之

今期より日本オーディオ協会は、新組織として「技術会議」を新設しました。この会議は健全なオーディオ文化発展のために、オーディオ技術の特徴と課題を整理し、方向性を見極め、各部会事業活動を補完するために開催します。その設立の趣旨と、当面の活動予定について簡単に報告致します。

1. オーディオ業界の現状

この10年間にオーディオ業界は大きな変貌を経験しました。

デジタル化技術の進化による音源の伝送技術と蓄積技術の発展は益々利便性を追求し、携帯オーディオを中心に、完全にパーソナルユースが主流となりました。

またグローバル化での全世界マ-ケティングによる低価格化が進み、この戦略を推し進める企業と従来のオーディオ戦略を極める企業とに分かれました。

また、コンテンツに関しては、インターネットや携帯電話を介して入手するノンパッケージ化への動きが拡大し、コピー文化の日常化と共に、ソフト産業に大きなインパクトを与えました。

一方で、マジョリティーを成す新しいオーディオの流れに於いて「高忠実度再生」というクオリティーに対する優先順位があまり高くありませんでした。各企業と放送界ではデジタル映像の技術向上が重視されました。また通信業界においても伝送技術の大幅進化により、消費者への利便性は大幅に向上しました。しかし画質の大幅な向上に比べれば、オーディオのクオリティーに対しては殆ど注力されなかったのが実情です。インターネット経由で入手されるコンテンツもその殆どは圧縮音源であり、高音質よりも伝送と蓄積の利便性が優先されました。

かたや一部の市場関係者は、パーソナルユースの代表である携帯オーディオに対して批判的な立場をとり、本来、多層的に発展すべきオーディオ文化は完全に二極化され、その後の市場形成に影響を与えました。

しかしクオリティーに対するニーズが消失した訳ではなく、携帯オーディオのヘッドホン、標準装備品から高音質品に買い換える等の動きも堅調です。インターネット経由で高音質の良質な音源を配信して再生するインターネットオーディオも、徐々に普及しつつあります。カーオーディオでも、HiFi層はデジタル技術を駆使したタイムアライメントによる音場補正が一般化しており、この動きが一般層にも広がりつつあります。このように時代と共にオーディオスタイルは変わっても、少しでも良い音を求める基本ニーズは潜在的に根強いものと考えられます。

2. オーディオのあるべき姿と進むべき方向性

国内オーディオ市場のあるべき姿としては、先ず、価格と利便性のみでなく、今一度オーディ

オ市場に「感動」つまり感性品質の概念を導入することです。但し、二極化を促進するような一面的な「感動」ではなく、全てのオーディオ生活シーンの中で相乗効果が生まれる様な「感動」という感性品質の概念を持ち込むことが肝要です。携帯オーディオでも、PCオーディオでも、カーオーディオでも様々なシーンにおいて常に「良い音で聴こう」という感性品質の追求が重要です。

次に成熟した文化の下においては複合化やパーソナル化、ノンパッケージ化は必然であることを前提に、新技術の融合による複合化に積極的に挑戦することが必要です。利便性による新生活スタイル提案と、良い音の追求という感性品質の向上を同時に提案していくことが重要です。

オーディオ技術の切り口としては、第一に音源の製作に関するもの。第二に音源の伝送に関するもので、ノンパッケージとパッケージの二つがあります。第三として音源復元に関するものです。このすべての切り口に於ける技術の方向は、あくまで高忠実度の探求を主軸とすべきだと思えます。これが大容量化デジタル技術と小型化要素技術により進化するものと考えられます。たとえ形態やシーンの違いによるレベル差があろうとも、「今より良い音で聴く」という文化が醸成され、多層的且つ連続的に繋がって大きなオーディオ文化という市場が形成されるのが理想です。

3. 技術会議の目的と当面の課題と活動

技術会議ではオーディオ文化と業界の健全なる成長の為に、より技術的な観点から技術トレンドを見極め、すべてのオーディオ関連分野に於いて、クオリティーの追求と健全なる企業活動の両立を実現すべく、側面的支援を展開します。

特に、最初に取り組む技術課題は、音楽再生空間の再現性の向上に関するもので、居室内、車室内、ヘッドホン等のいずれの音場空間でも、等価で良質な音楽再生の為に技術的検討を進めます。

例えば室内とヘッドホンの音場の違いによる課題について考察してみましよう。音楽コンテンツの殆どは2本のスピーカーを室内で再生する前提で作られています。この場合、右側のスピーカーの音は左耳にも、また左側のスピーカーの音は右耳にも入ります。しかしヘッドホンでは、右チャンネルの音は右耳のみ、左チャンネルの音は左耳のみに入力されます。つまり2本のスピーカーで聴くことを前提に製作者が作ったコンテンツをヘッドホンで聴いても、製作の意図どおりの音場を得ることはできません。これが頭内定位問題の基本課題です。しかしこれだけヘッドホンオーディオが普及しているにもかかわらず、この課題に対して業界では、ごく一部でしか取り組まれていないのが実情です。

また、新しいインターネットオーディオについても、まだ過渡期にあるため、名称ひとつとっても、PCオーディオ、USBオーディオ、Netオーディオ等混沌としており、用語を含めて様々な観点から整理が必要な状況です。

さらに技術会議では、技術の整理や方向付けに加えて、検討された内容を消費者に分かりやすく紹介していくことや、しかるべき関係組織に情報発信していくことが、重要なテーマと考えます。これには展示会とリンクしたセミナー開催や、独自有料シンポジウムの開催等を企画する予定です。

構成メンバーは、理事、各委員会委員、諮問委員、学識者等で構成しますが、JEITA や AES、日本レコード協会等とも密接に連携して進めていきたいと考えます。

音のサロン委員会（旧専門部会）

音のサロン委員会担当 理事

アキュフェーズ株式会社

高松 重治

「音のサロン委員会」の成り立ち

2011年10月開催の音展(オーディオ&ホームシアター展)でのイベント「音のサロン」は本来のオーディオを一般ユーザーの皆様にお聴かせすることを目標に企画したところ、連日のお客様動員数から分かるように大成功裡に終えることができた。

一度はビジュアルに占領された業界地図のオーディオも漸く回帰し、お客様が「もっと良い音を聴きたい」という現象に他ならない。年一回のイベントだけでは勿体ない、あらゆる角度からオーディオ活性化を念頭に置きお客様をサポートする方法はないか、旧専門部会参加各社で検討を重ねた。

日本オーディオ協会(以下協会と略す)に於いて「専門部会」だけが活動名ではなく、集合名であるため他の委員会名とは違和感があった。そこで好評であった「音のサロン」を組織の冠にした委員会とし、活動をユーザーに「音を聴いて戴きたい」という強い願望が込められている。そしてこの名称が晴れて協会の総会において承認を受けた。本文では専門部会時代からの活動検討を音のサロン委員会として報告したいと思う。昨年の活動の詳細はJASジャーナル2011年9月号(Vol.51 No.5)「JAS委員会レポート」にJASの渡邊哲純さん(元日本ビクター)が著わされているので参考にして欲しい。なお本稿が渡邊さんの記事との重複部分をお許しいただきたい。

音のサロン委員会参加企業(五十音順)はアキュフェーズ株式会社、オンキヨーマーケティングジャパン株式会社、株式会社クリプトン、CEC株式会社、ティアック株式会社、株式会社ディーアンドエムホールディングス、株式会社トライオード、フォスター電機株式会社、富士通テン株式会社、ヤマハエレクトロニクスマーケティング株式会社、ラックスマン株式会社の11社である。文中では正式名称ではなく略称を使わせて戴く。

活動方針

故事「毛利元就の三本の矢」ではないが、小さい組織が集まって大きな事を成し遂げたいという校條会長の方針と、渡邊哲純さんの強力なサポートがあったからこそ「音のサロン委員会」が実現していることを特に申し上げる。

昨年の音展終了時点から直ちに「鉄は熱いうちに・・・」ということから新しい活動を開始。参加企業には大変な負担にはなったが、

1. 年一回の「音展」イベントだけではなく恒常的に試聴会が出来ないか。
2. ユーザーの知りたい技術を伝えるには。
3. オーディオの技術向上に努めるには。

の3点に絞られ検討を重ねてきた。

まず「音のサロン」と「PC オーディオ」の二つのWG (Working Group) を立ち上げ活動を開始し、会議数は昨年11月から今年7月までで15回にも上るハードスケジュールをこなしていった。

音のサロン WG (主査 : ラックスマン小嶋 康さん)

その名の通り委員会名を頂いた名称であるが、オーディオ本来の「音」を聴いて戴く事を旨とした。よって音展でのイベント名のみならず開催される試聴会は「音のサロン」と称することになる。「音のサロン」参加企業各社に於いては、自社で催される試聴会には手慣れており、比較的手際が良く、何をお客様に訴えるかも知り尽くしている。これらのノウハウをこの音のサロンに生かしてゆけば、オーディオ業界の意志が表れ、理解が深まり、オーディオを廃れさせないことになると思う。

昨年の音展での「音のサロン」に於いてのイベント風景を参考にしていきたい。この共同イベントは5つの価格ランクに分けられたメーカー入り乱れての組み合わせになり、依っての講師の後ろには参加メーカーの多くのスピーカーが散見できる。限られた時間内に組み合わせセットを素早く入れ替えた。

会場づくりには限られた会議室を如何に試聴に適合させるかにも腐心した。参加メーカー(ヤマハ)から高価な音調パネルの提供と設置を受けたことを特筆しておきたい。



2011年音展「音のサロン」共同イベント風景、
講師は評論家の麻倉怜士さん



60席を超えて多くの人が立ち見(聴き)席

講師のお話のレベルの高さも然る事ながら、聴衆写真を見て分かる通り用意した60席を超えて多くのユーザーが聴き入っている様から、如何にこの類のイベントへの関心の高さを窺い知ることができた。これによって大きな会場をと誰しもが考える事だが、会場を大きくすることによる音響的な部分が失われることになり、精々この程度が最大と考える。

このイベントでは11社が結束しての試聴会であったため、各社の機器を入り乱れて接続することができ、ユーザーにとってもメーカーにとっても、またとない試聴会になった。この形態は

暫く続けて行きたいと考えている。

写真紹介以外のイベントでも高音質配信音源、PC オーディオ、高音質ディスク(レコード協会)、アナログレコード、真空管オーディオ(真空管オーディオ協議会主催)、大学生による試聴会等、多岐に亘ってユーザーが知りたい、聴きたいであろうことを周到に用意し、参加メーカー全社で知恵と力を出し合って開催できたことに、ここで改めて参加メーカーに感謝申し上げる。

さて音展以外の「音のサロン」試聴会として、対象者、開催時期、開催場所、開催内容、共同開催等、種々検討を重ねた結果、概ね次のような事を予定し、開催に向けて着々と進行している。当初、経費節減の折、会場を協会会議室使用やレコード販売店との共同イベントを考えたりしていたが、協会渡邊さんから千代田区管理の日比谷図書館の小ホール(日比谷図書文化館)を使用した日本オーディオ協会と千代田区との共同イベントが提案された。楽曲ソース提供も考慮し、日本レコード協会にも加わっていただき、三組織の共催で凡そ年4回(春夏秋冬)の開催を予定している。

現在までに決まっている内容は

第一回：9月「ビートルズを聴く」

第二回：11月「音楽の歴史」

第三回：2013年2月「90年代のJ-ROCK」

第四回：2013年5月「ジャズ入門講座」

これらは千代田区側が区内の文化的な催事意向と相まって、音のサロン委員会側との方針が合致したことによる。最大の難関は広報活動であり、ある程度千代田区側が行うのでどんな客層が集まるかが危惧するところであるが、協会としても積極的に行いたい部分である。

PC オーディオ WG (主査：クリプトン渡邊 勝さん)

現在のディスク・メディアの販売数量が世界的に減少していることに危惧し、在来のメディアを否定せず且つ新しいメディアの台頭を尊重する姿勢、オーディオを新しい方向でもフォローすることを主眼に考える。

いま旬であるところのディスク・メディア以外の音源はネットワークからのダウンロードが中心となるが、媒体としてPCを使用するオーディオやUSBメモリー、ネットワーク上のストレージであるNAS(Network Attached Storage)を使用する方法などを、一般ユーザーに知らしめることを中心に、初歩的なレクチャーすることを目的とする。

音のサロン委員会参加メーカーの中に、ネットで音源供給しているオンキヨー、クリプトンがありこの二社が中心となって「PCオーディオ入門講座」を企画し、既に二日間・四回の講座を終了した。

広報活動としては一部の雑誌社と協会のホームページであったが、協会HPの募集開始一日で定員に達したことは、如何に関心が高いかを如実に示している。本稿出稿以降あと二日の開催を予定している。講座終了後にはアンケートを実施し、ユーザーのレベル・関心度などを調査しているが、ユーザーの使用機器範囲が広くパソコンOSを変えた講座やもう少しハイレベルなものなどの要望があることを今後の実施内容に反映させてゆくつもりである。



PC オーディオ入門講座 (6月15日に開催された第二回目午前の部) 協会 7F 会議室

【解説】

CD プレーヤーでは決まったフォーマットでメディアをロードし、復調することを一つの閉ループで行ってきたのでユーザーは大変に安全であり楽であったが、決まったフォーマットを持たないダウンロード・メディアでは、何でもありの世界である。然るにネットからのダウンロードから始まり、保管するストレージ、復調するソフトウェアの選定、はたまた DA コンバーターなどと組み合わせは千差万別になり、選択肢が増えユーザーの楽しみが増えたわけである。しかしながら逆の見方をすれば、慣れないユーザーにとっては混乱の極みである。同時に制作する側はそれこそ大変(ダウンロードであればモノのカタチは無いので大きな損失にはなるまい)。ビデオのように方式競争に陥り、同一ソースでありながら多方式メディアとプレーヤーを発売したように、結局はユーザーの損失になることだけは防がなければならない、またぞろオーディオが難しくユーザー離れにならないように気を配らなければなるまい。

第三番目のオーディオの技術向上について

協会では 2004 年に開催された「JAS コンファレンス」を最後に、それまでほぼ 2 年おきに行われてきたことが自然消滅して今日に至っている。理由は定かではないがオーディオ斜陽で技術がビジュアル関係に費やされてきたものと思われる。これを境にオーディオが低迷し始めている。

立て直しとまでは行かずとも技術を共有し、例えばネット・オーディオなどは各企業で発表し合い、良い意味での競争をユーザーにも知らしめ、現在オーディオ業界はどういう方向に進んでいるのか、また進んでゆくのかを公表し、色々な方式が出てきて権利主張もあろうかとも思うが、綺麗事では自然淘汰、悪い意味ではユーザーを犠牲にして市場を形成することからは脱皮すべきであると思う。決してメーカー同士の話し合い(談合)ではなくユーザー保護の意味から申し上げたい。よって従来行われてきた JAS コンファレンスは参加企業向けではなく一般ユーザーにも聴講できるように、音展での開催を進めると良い。そしてハイレベルではなくユーザーの実際の製品の購入にも生かされるような内容を考慮すべきと考える。

これらは音のサロン委員会のみでは出来ないので、協会全体として今後考えて行くべき方向である。

連載 第13回 『試聴室探訪記』
～谷口とものり、魅惑のパノラマ写真の世界～
原口博行氏のリスニングルーム訪問

フォトグラファー 谷口 とものり・森 芳久・石井 伸一郎



今回訪問させていただきました原口邸は、伊豆の高級別荘地伊豆高原に設えられた大型のリスニングルームです。原口博行氏は関西で会社経営をされていましたが、念願の「思う存分良い音で音楽を楽しみたい」と、リタイアされた後、この伊豆の海が眺望できる伊豆高原に別荘を建てられました。

クラシックファンとしてオーディオを趣味として始められた原口氏は、次第にオーケストラを等身大で聴きたいという願望が強くなり、ここまで行き着いたとのこと。確かに、ここで聴く大音量の音楽は普通の家庭ではなし得ないものです。まるで目の前に楽団が勢揃いしているかのようです。シンフォニーはもちろん、ビッグバンドのジャズも朗々と鳴り、原口さんがこのリスニングルームで聴くようになって、ジャズの魅力にも取り付かれたという言葉にも頷けます。それにしても、羨ましい限りの贅沢なリスニングルームです。

この大型のリスニングルームは、第9回の佐原邸と同じく、石井伸一郎氏の設計になるものです。石井氏からこの部屋に関する寄稿もいただきましたので合わせてご覧ください。

また、石井氏から美しい装置のレイアウト図をいただきましたので、装置の詳細はこの図をご参照ください。従いまして、今回のパノラマ画像には、いつものような機種名などが表記されません。尚、今回の取材には、設計者石井伸一郎氏、アキュフェーズの高松重治氏にもご協力いただきましたこと、この場を借りて御礼申し上げます。

(森 芳久)

原口邸のリスニングルームについて

オーナーの原口氏は若い時にオーケストラの曲に感激してオーディオに興味を持ち、初めはパナソニックの通称ゲンコツと呼ばれた8PW1を用いたシステムで聴いていましたが、次第にエスカレートして38cm 2本と中音ホーンと高音ホーンにリボンツイターを用いた現在のシステムの中核をなすシステムにまで発展したのです。このシステムは奈良の生駒の自宅の24畳間のリビング兼応接間に設置されていたのですがいくら調節しても期待する音を再生することは出来ませんでした。

散々苦労した末にどうしても良い音が出ないので思い余って筆者のところに相談に来られたのです。部屋の寸法を聞いてみると、筆者が発見した「天井の低い部屋を縦長配置で用いた場合に発生する低域の大きな谷」のために良い音が出ないことがわかりました。そこで筆者宅で縦長配置と横長配置の音を体験して頂き、スピーカー配置を横長配置に変更することをお勧めしたのです。早速横長配置に変更したところ、期待した音が再生されて非常に喜んで頂きました。

その後しばらくして伊豆高原に別荘を建てるのでそこに理想的な部屋を造りたいと相談があったのです。

この部屋は伊豆急鉄道の伊豆高原駅から車で10分ほどの見晴らしの良い山腹に建てられた鉄筋2階建ての別荘の一角に一二階吹き抜けで造られています。大きさは8m×6.6m×5.8mで筆者の設計した個人の部屋ではもっとも大きな部屋です。縦横高さの比率は1:0.825:0.725と正確に筆者の推奨値の比率になっています。床面積は正味32畳間で、容積は306立方メートルと非常に大きな部屋です。

この部屋の音響処理は筆者の考案した完全反射完全吸音式の壁構造を採用しています。吸音部の面積はオーナーがクラシックをメインに聴くことから床天井と周囲の壁面の全面積の17%に設定しています。

反射壁の構造は、12mmのプラスターボード2枚の上に5.5mmのシナ合板表面材を貼った合計厚さが30mmの強固な構造です。反射壁の後ろにも合計120mmのグラスファイバー吸音材が挿入されています。

床はコンクリートの上にコンパネと呼ばれる12mmのラワン合板の上に15mmの無垢のカリ材を張った強固な構造です。床暖はありませんが冬季も特に問題は無いようです。

スピーカーの対面の壁面には大きなスライド式の扉が2枚設置されているが、この扉を開放すると隣の食堂で食事をしながら音楽を楽しめるようになっています。朝食のときには女性ボーカルをサブスピーカーから小さなサブスピーカーから流しながら食べると非常に幸せな気持ちになります。

眼下に相模湾があり、その向こうに伊豆大島が見える風光明媚な場所なので海側の壁面には大きな窓を付けましたがこれは非常に良かったと喜ばれています。厳密には少し特性に影響があるかも知れませんが実用上は全く問題は無いようです。ガラスの厚さは10mmです。設計と工事は地元の建築会社が担当しましたが、事前に新潟にある完全反射完全吸音の部屋を設計者と工事担当の職人さんに見てもらったのが非常に役にたっています。

部屋の長さが8mなので最低のモードの周波数は21.8Hzと可聴帯域の下限に近い値になって

います。天井が高いので縦長配置でも非常に良い特性なのですが、横長配置を前提に設計しています。

スピーカーシステムは最低帯域に72cm ウーファーを用いた6チャンネルシステムで非常に大きなステージが眼前に広がります。氏はクラシックを主に聴かれるので、この部屋のスピーカーからリスニングポイントまでの特性は低域が盛り上がり高域が緩やかに低下している特性となっていて大型システムらしいどっしりした音が再生されます。

このシステムのスピーカーユニットの構成は氏がオーディオ誌を参考にご自分で考えられたのですが、各ユニットの特性を測定してクロスオーバー周波数を決めたり最初の特性の基本設定は筆者が行いました。そして各チャンネルのレベルの微調整は氏が愛聴盤を聴きながら行いました。

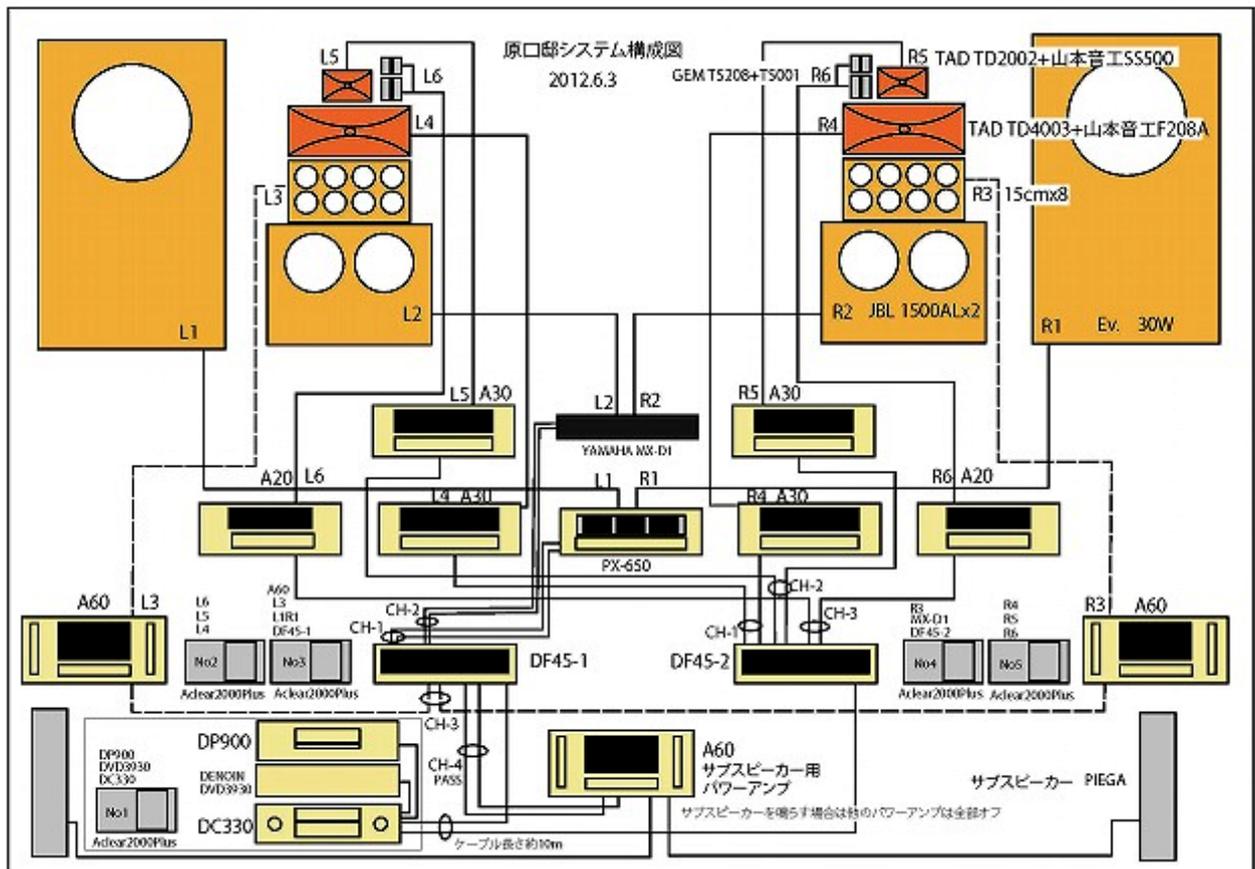
また各ユニットのディレイタイムはウェーブレットスカログラム測定法を用いて調整していますがこれによって非常にシャープな音像定位が得られています。

このシステムで再生される音は、女性ボーカルは非常に艶のある声で鳴り、オーケストラは非常に雄大なスケールの音像が再現されるのでオーナーは非常に満足されています。

撮影が済んでから音出しをしたのですがオーケストラの迫力と、ジャズのビッグバンドの迫力、それに鬼太鼓座の大太鼓の大迫力に撮影者と取材者は非常に感激されたようです。演奏が済むと自然に拍手が出るほど凄い臨場感が味わえました。

(設計者 石井伸一郎)

原口邸システム構成図



パノラマ画面の操作説明

- パノラマ写真は、[ここが](#)、はじめのページの**試聴室画像**をクリックしてご覧ください。
(ローディングに若干時間がかかる場合があります。)
- マウス操作で、画面を上下・左右 360 度、自在に回転してご覧いただけます。
- スピーカー、アンプ等、マウスを当てて、クリックすると機器名が表示されます。
- 画面下にある操作ボタンで次の操作ができます。

	画面のズームイン
	画面のズームアウト
	画面の左方向への移動
	画面の右方向への移動
	画面の上方向への移動
	画面の下方向への移動
	サウンドオフ
	フルスクリーン
	画面回転ストップ

JAS Information



オーディオ・ホームシアター展
Audio・Home Theater Exhibition

2012年10月19日(金)～10月21日(日)・秋葉原で開催



オーディオ・ホームシアター展
Audio・Home Theater Exhibition

2012.10. **入場無料**
一部イベント：有料
19 Fri **20** Sat **21** Sun
 10:00 ▶ 19:00 (最終日のみ17:00)

会場：秋葉原UDXアキバスクエア
 富士ソフトアキバプラザ
 秋葉原電気街他

主催：一般社団法人 日本オーディオ協会

「オーディオ・ホームシアター展」(音展) 開催のご挨拶

一般社団法人 日本オーディオ協会 会長 校條 亮治

今年も秋葉原において4回目となる「オーディオ・ホームシアター展」を、開催する運びとなりました。ご出展社、及びご関係の皆様様に心より感謝を申し上げます。昨年は国難とも云える「東日本大震災」が起き開催が危ぶまれましたが、多くのご支援の下に開催することができました。また、被災地の子供たちに音楽を届けようという思いで、学校へ機器の提供をさせて頂きました。ご関係の皆様様に重ねまして心から御礼を申し上げます。

さて、今年の開催にあたって基本的な考え方を述べさせていただきます。

第一は、今こそ感性価値を磨き上げる必要があることです。震災勃発により、本来人間が持っていた"思いやり"や"きずな"の重要性に気づかされました。しかし、震災勃発等という不幸で気づくのではなく日常的に磨かれていなくては先進国とは言えません。

一方、発展途上国の人々の方が心優しいと思えるのは何故でしょうか。感性価値や音楽という心の中心にあるべきものを私たちは疎かにしてきたのではないかと思わざるを得ません。この展示会を単に機器展示の場だけでなく、良い音楽・良い音オーディオが心に与える重要性を、多くのお客様に伝えてほしいと思っています。

第二は、今年はCDが世に出て30周年、また、日本オーディオ協会創立60周年という記念すべき節目の年でもあります。

先々代会長の中島平太郎氏を中心に光デジタルディスクという、とてつもない技術を世に送り

出し、30年という長きに亘って未だ第一線メディアにあることは驚愕すべくことです。この展示会でCD30年が果たした役割とその原点及び技術の進化を振り返り、次世代オーディオへの考察を深める必要があります。今日、配信オーディオやPCオーディオあるいは、ネットワークオーディオと、かまびすしい状況ですが、今一度CDの原点を振り返る事こそが明日のオーディオを語る事ができると考えます。

さらには我国の民生用電子機器業界を牽引したのは、まさにオーディオでした。諸先輩の偉業に対して心から敬意を表するとともに、その一端を振り返りたいと考えております。

会場には、お子様からマニアまで、オーディオ60年の一端を見て頂けるような特設ミュージアムを展開する予定です。

第三は、これらを有機的に結合させるべく、秋葉原地区での地産地消を展開します。国内産業の空洞化が叫ばれていますが、まだまだ我々は国内でやるべきことが多くあると考えています。業界を代表しまして、是非とも皆様の絶大なるご支援をお願いするところであります。私たちは、かつて経験したことの無い大地震と、福島第一原子力発電所の津波事故に見まわれました。既に半年が過ぎましたが未だその傷後は言葉になりません。被災されました方、並びに被災地域の方々に対しまして心からお見舞いを申し上げます。

さて、オーディオ、音楽、映画ファンの皆様、お待たせいたしました。今年も「オーディオ&ホームシアター展 TOKYO」(音展)を無事開催することとなりました。日本オーディオ協会は、こんな時こそと総力を上げて準備をまいりました。開催に向けご尽力を頂きました関係者の皆様に心から御礼を申し上げますと共に、率直に喜びたいと思います。

今次「音展」の開催意義に大震災復興支援を掲げております。一日も早く被災された方々が元気になられますようご支援をしたいと思います。是非とも多くの皆様の来場と義援募金をお願いするところです。

内容については第一に、従来にない新技術、新情報を30テーマを越すセミナーでお届けいたします。第二は"見れる、聴ける、触れる"をモットーに徹底した試視聴を新設の「音のサロン」で、また新時代のオーディオ技術と機器を、倍増されたオーディオ協会テーマブースで展開いたします。第三は、相乗効果を求めて、初めて「真空管オーディオ協議会」と共催することができました。そして第四は、地産地消と秋葉原の更なる発展を目指し、地元のデジタルハリウッド大学、観光推進協会、千代田区、秋葉原TMOなど多くの方々とのコラボレーションができたことです。これらをベースに日本人が最も得意とする「感性価値文化」の復活と、地域の発展に寄与できることを誇りに展開してまいります。皆様のご来場と絶大なるご支援をお願い申し上げます。開催のご挨拶とさせていただきます。

開催概要

会期

2012年10月19日(金)～10月21日(日)	<3日間>
19日(金)	10:00～19:00
20日(土)	10:00～19:00
21日(日)	10:00～17:00

会場

秋葉原 UDX・富士ソフトアキバプラザ・秋葉原電気街他

主催

一般社団法人 日本オーディオ協会

〒104-0045 東京都中央区築地 2-8-9 レコード会館 6F

電話：03-3546-1206 FAX：03-3546-1207

企画・運営

オーディオ・ホームシアター展 2012 実行委員会

オーディオ・ホームシアター展 特設ホームページ <http://www.oto10.jp/>

後援

経済産業省・千代田区・一般社団法人電子情報技術産業協会・日本放送協会・

一般社団法人日本レコード協会・一般社団法人日本民間放送連盟・

公益社団法人インテリア産業協会・一般社団法人日本音響学会・

一般社団法人日本音響材料協会・一般社団法人日本記録メディア工業会・

一般社団法人映像ソフト協会・日本舞台音響家協会・

一般社団法人モバイルコンテンツフォーラム・

モバイルコンピューティング推進コンソーシアム・

日本プロ音楽録音賞運営委員会

(申請中を含む 順不同)

協賛

秋葉原タウンマネジメント株式会社・秋葉原駅前商店街振興組合・

秋葉原駅前電気商連合会・真空管オーディオ協議会・

ハイエンドショウトウキョウ実行委員会・株式会社アイエー出版・株式会社音楽出版社・

株式会社音楽之友社・株式会社音元出版・株式会社共同通信社・

株式会社ステレオサウンド・株式会社誠文堂新光社・株式会社電波新聞社

(申請中を含む 順不同)

協力

富士ソフト株式会社・NTT 都市開発株式会社・株式会社新産業文化創出研究所・

ユーディーエックス特定目的会社・特定非営利活動法人秋葉原観光推進協会

(申請中を含む 順不同)

特別協賛

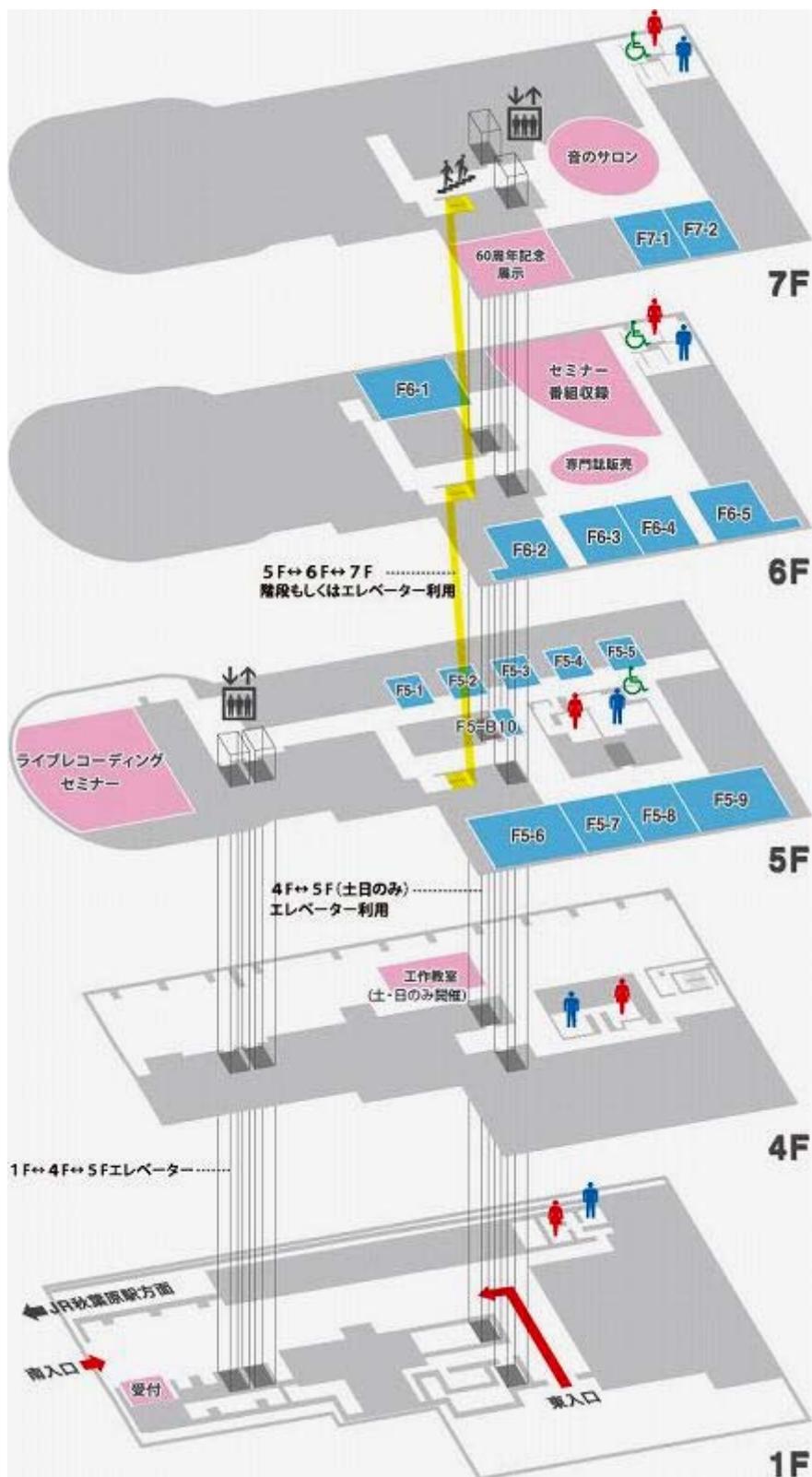
秋葉原電気街振興会・株式会社エディオン・株式会社ヨドバシカメラ

秋葉原 UDX 2階会場 ブース番号・出展者名



ブース番号	出展社名	ブース番号	出展社名
A-1	富士通テン株式会社	B1-24	株式会社サザン音響
A-2	パイオニア販売株式会社	B2-13~15	CAV ジャパン株式会社
A-3	三菱電機株式会社	B1-25	ラトックシステム株式会社
A-4	タワーレコード株式会社	B1-26	株式会社バッファロー
B1-1	アムトランス株式会社	B1-27~29	株式会社シンタックスジャパン
B1-2~5	有限会社エムズシステム	B2-19	株式会社電波新聞社
B1-6	エタニ電機株式会社	B-37	株式会社 Teragaki-Lobo
B1-7	JSP 研究所	B1-35~36	一般社団法人日本レコード協会
B1-8~9	日東紡音響エンジニアリング株式会社	協会テーマ	
B2-1	日本精機宝石工業株式会社	B1-30a	CEC 株式会社
B2-2~4	パナソニック株式会社	B1-30b	株式会社メース
B2-5	株式会社クラレ	B1-31a	株式会社クリプトン
B2-6~7	オンキヨー株式会社/オンキョーマーケティングジャパン株式会社/オンキョーエンターテイメントテクノロジー株式会社	B1-31b	ナクソス・ジャパン株式会社
B1-10~11	トモカ電気株式会社	B1-32a	オンキョーエンターテイメントテクノロジー株式会社
B1-12	有限会社六本木工学研究所		株式会社アイ・オー・データ機器
B1-13	オオアサ電子株式会社		NEC ライティング株式会社
B1-14	株式会社ドリームクリエーション		オンキョー株式会社/オンキョーマーケティングジャパン株式会社
B1-15	第一通信工業株式会社		株式会社 JVC ケンウッド
B1-16	カナルワークス株式会社		ゼンハイザー・ジャパン株式会社
B1-17	ティアック株式会社		ソニー株式会社/ソニーマーケティング株式会社
B1-18	ソニー株式会社/ソニーマーケティング株式会社	B1-32b	ティアック株式会社
B2-8	フォスター電機株式会社	B1-33~34	株式会社ティアック
B2-9~12	フォステクスカンパニー	B2-16~18	株式会社ティアック
B1-19	ソニー株式会社/ソニーマーケティング株式会社		パイオニアマーケティング株式会社
B1-20~21	オリンパスイメージング株式会社		株式会社長谷弘工業
B1-22	株式会社コルグ		富士通株式会社
B1-23	S'NEXT 株式会社		パナソニック株式会社
B1-24	アドフォクス株式会社		ヤマハエレクトロニクスマーケティング株式会社

富士ソフトアキバプラザ会場



ブース番号	出展社名	ブース番号	出展社名
F5-1	ヒビノインターサウンド株式会社	セミナー	アムトランス株式会社
F5-2	株式会社ナスペック	セミナー	エタニ電機株式会社
F5-3	株式会社小柳出電気商会	セミナー	NTT エレクトロニクス株式会社
F5-4	株式会社東和電子	セミナー	株式会社トライオード
F5-5	サエクコマース株式会社	セミナー	株式会社音元出版
F5-6	パイオニアマーケティング株式会社	セミナー	株式会社共同通信社
F5-7	ゴールドムンドジャパン株式会社	セミナー	クボテック株式会社
F5-8	スペック株式会社	セミナー	株式会社クラレ
F5-8	関口機械販売株式会社	セミナー	株式会社コルグ
F5-8	DYNAUDIO JAPAN 株式会社	セミナー	株式会社サザン音響
F5-9	株式会社テクニカルオーディオデバ セイズ ラボラトリーズ	セミナー	株式会社ステレオサウンド
F5-9	日本プロ音楽録音賞運営委員会	セミナー	株式会社誠文堂新光社
F5-B10	株式会社ドリーム	セミナー	株式会社 Teragaki-Labo
F6-1	NTT エレクトロニクス株式会社	セミナー	株式会社東和電子
F6-1	日本モレックス株式会社	セミナー	日本モレックス株式会社
F6-1	花岡無線電機株式会社	セミナー	花岡無線電機株式会社
F6-1	日立マクセル株式会社	セミナー	日立マクセル株式会社
F6-1	メモリーテック株式会社	セミナー	メモリーテック株式会社
F6-2	ソニー株式会社/ソニーマーケティ ング株式会社	セミナー	聖新陶芸株式会社
F6-5	ソニー株式会社/ソニーマーケティ ング株式会社	ライブレ コーディング	オリンパスイメージング株式会社
F6-3	カイザーサウンド有限会社	ライブレ コーディング	株式会社ズーム
F6-4	クボテック株式会社	ライブレ コーディング	ソニー株式会社/ソニーマーケティ ング株式会社
F7-1	聖新陶芸株式会社	ライブレ コーディング	ティアック株式会社
F7-2	株式会社 JVC ケンウッド	ライブレ コーディング	株式会社コルグ
工作教室	秋葉原駅前商店街振興組合	ライブレ コーディング	株式会社音元出版
工作教室	S'NEXT 株式会社	ライブレ コーディング	株式会社音楽出版社
音のサロン	アキュフェーズ株式会社	ライブレ コーディング	株式会社共同通信社
音のサロン	オンキヨー株式会社/オンキヨーマーケ ティングジャパン株式会社	ライブレ コーディング	株式会社ステレオサウンド
音のサロン	株式会社クリプトン	ライブレ コーディング	株式会社誠文堂新光社
音のサロン	CEC 株式会社	ライブレ コーディング	株式会社ミュージックバード
音のサロン	株式会社ディーアンドエムホールデ ィングス	ライブレ コーディング	
音のサロン	フォスター電機株式会社	ライブレ コーディング	
音のサロン	フォステクスカンパニー	ライブレ コーディング	
音のサロン	富士通テン株式会社	ライブレ コーディング	
音のサロン	ヤマハエレクトロニクスマーケティ ング株式会社	ライブレ コーディング	
音のサロン	ラックスマン株式会社	ライブレ コーディング	
音のサロン	ティアック株式会社	ライブレ コーディング	
音のサロン	株式会社トライオード	ライブレ コーディング	
		番組収録	

*本記事の会場案内・イベント案内等はすべて9月19日現在です。変更の場合はホームページで案内されます。 公式ホームページ <http://www.oto10.jp/>

各種イベントセミナー一覧(予定)

2012年9月19日現在

会場	開催日	開催時間	種別	主催	タイトル・内容	講師・出演	
富士ソフト 4F フロア	20日	11:00~13:00	ワークショップ (有料イベント)	S'NEXT(株): 1回目	「高級限定モデルイヤホン」を組み立てよう! (高校生以上)		
		15:00~17:00		S'NEXT(株): 2回目	「高級限定モデルイヤホン」を組み立てよう! (高校生以上)		
	21日	10:30~13:00		秋葉原駅前商店街振興組合	「エコー付きカラオケアンプ」を作ろう! (親子教室)		
		14:00~17:00		秋葉原駅前商店街振興組合	「PCL86シングルステレオアンプ」を作ろう! (高校生以上)		
富士ソフト 5F アキバホール	19日	11:00~13:00	セミナー	日本オーディオ協会	「最近のオーディオ音源の動向について」		
		14:00~15:30		デジタルホームシアター 普及委員会	「ホームシアターの音を100倍楽しむ方法」 ～ルームチューニングの秘訣教えます～	石井伸一郎氏	
		17:15~18:30			「ホームシアターの映像を100倍楽しむ方法」 ～映像キャリブレーション講座～	鴻池賢三氏	
	20日	11:00~12:30		(株)共同通信社	「CD(コンパクトディスク)30年を聴く」 ～過去の名機と新技術搭載機聴き比べ～	角田郁雄氏	
		13:30~15:00		(株)ステレオサウンド	「ゴールドのガラスCDを聴く」 ～10月発売予定「パッパ:ゴールドベルク変奏曲」より～	三浦孝仁氏 ゲスト予定:(株)ソニーミュージックダイレクト	
		16:00~17:30		(株)音元出版	「ネットオーディオでハイレゾマスタを聴こう!」 ～FLX.RECORDSなどのDSDとハイレゾ音源聴き比べ～	岩井 喬氏	
	21日	13:15~14:15		ライブ レコーディング 体験会 (有料イベント)	日本オーディオ協会	ライブレコーディング体験会	(出演)Attractive Wind Orchestra (レコーディング講師)石田善之氏
		15:30~16:30					
富士ソフト 6F セミナールーム	19日	10:30~11:30	セミナー	東和電子(株)	「Olasonic 新シリーズ開発発表会」		
		12:10~13:10		エタニ電機(株)	「iPhoneベースのアナライザによる音場改善」	エタニ電機(株) 日野捷吉郎氏	
		13:50~14:50		(株)Teragaki Labo	「認識からの出発」	寺垣 武氏	
		15:30~16:30		クボテック(株)	「超コンパクトスピーカーで『リアル3Dオーディオ』を実現!!」	クボテック(株) 久保哲夫氏	
		17:10~18:10		聖新陶芸(株)	「CASの最新型・陶器製スピーカーを聴く」 ～陶器エンクロージャーのオーディオ再生の優位性～	石原 俊氏	
	20日	10:30~11:30	番組収録	(株)ミュージックバード	新チューナー発売記念 ～ハイエンド・オーディオで聴くミュージックバード感動音体験～	村井裕弥氏	
		12:10~13:40	セミナー	(株)誠文堂新光社	「回路方式の違いによる300B真空管アンプ4機種の試聴」 ～4名の制作者の解説と試聴～	佐藤進氏、松並希活氏、 岩村保雄氏、征矢進氏	
		14:20~15:20		クボテック(株)	「超コンパクトスピーカーで『リアル3Dオーディオ』を実現!!」	クボテック(株) 久保哲夫氏	
		16:00~17:00		(株)トライオード	「デジタル時代における真空管の役割について」	(株)トライオード 山崎順一氏	
		17:40~18:40		(株)クラレ	アレンジ自在な調音パネル「静御殿」 -特殊不織布<フレクスター>の応用-	準備中	
	10:30~11:30	アムトランス(株)		「アムトランスより!ヘッドホンファンにも朗報!音楽が美味しくなる準スピーカーの誕生～目の前で演奏しているような良音～」	石田善之氏 ピフレステック(株)茶谷郁夫氏		
	21日	12:10~13:10	セミナー	NTTエレクトロニクス(株)/他	「ロスレス圧縮と音場制御の新しい応用」	準備中	
		13:50~14:50		(株)サザン音響	「ダミーヘッドマイク收音とバイノーラル3D再生のノウハウ」	(株)サザン音響 稲垣潔文氏	
		15:30~16:30		(株)コルグ	「DSD試聴会」 ～DSD超高音質サウンドを体験しましょう～	準備中	
富士ソフト 7F プレゼンルーム	19日	11:00~12:00	音のサロン	音のサロン委員会	「最新最高音質の配信音源を聴く」(パート①)	e-onkyo	
		13:00~14:00			「真空管アンプでアナログレコードのジャズの名演を聴く」	伊藤八十八氏	
		15:00~16:00			「Female Vocal(高橋真梨子・岩崎宏美)を聴く」	榊田テイクエンタテインメント ビクターエンタテインメント榊	
		17:00~18:00			「シャンソンとフランス文化の楽しみ」	元FM Fan編集長 小林俊彦氏	
	20日	11:00~12:00			「最新最高音質の配信音源を聴く」(パート②)	HOM store	
		13:00~14:00			「高音質CDから高音質音楽(HD-Sound)までの音質の進化」	日本レコード協会 鈴木順三氏	
		15:00~16:30		真空管オーディオ協議会	「1920年代に生まれた名出力管250ブッシュ ル・アンプ」で聴くWE594	新 志篤氏	
		17:30~18:30			「学生によるクラシックディスクコンサート」	クラシック 音楽愛好会	
	21日	11:00~13:00			音のサロン委員会	「最新PCオーディオ試聴会」	
		14:00~16:00				「価格帯別コンボの魅力を探る」	麻倉幹士氏
UDX 2F 特設会場	19日~ 21日	11:00~12:00	体験会	デジタルホームシアター 普及委員会	「ここまでの音場補正」 -各社方式の効果を知ろう-		
		13:00~14:00			「今の映像に満足ですか?」 -映像調整のテクニックを学ぼう-		
		15:00~16:00			「ITU-R配置は絶対か?」 -サラウンドスピーカー配置の理想と現状-		
		17:00~18:00			「部屋を変えれば音も変わる」 -ルームチューニングを体験しよう-		
		(19・20日のみ)					

富士ソフトアキバプラザ会場 4F 工作教室



*写真は2011年の様子です

♪ 作るを楽しむ! 工作教室

20^{Sat} 21^{Sun} 開催

開催場所:富士ソフトアキバプラザ 4F

昨年大好評の大人の「工作教室」を今年も開催いたします。

自分の手塩にかけたオーディオ機器は、販売店で購入しただけでは得られない満足アイテムとなります。新しい趣味の始まりを楽しんでください。

例年開催される「親子工作教室」も開催されます。親子(保護者)揃ってご参加ください。

富士ソフトアキバプラザ会場 7F ライブレコーディング体験会



♪ 生演奏・録るを楽しむ! ライブレコーディング体験会

21^{Sun} 開催

開催場所:富士ソフトアキバプラザ 7F

ライブレコーディング「体験会」として、今回が6回目の開催となります。

今回は、最近ファンが急増中のプラスバンドの演奏を楽しんでいただくと同時に、話題の「ポータブルPCMレコーダー」を使い、生演奏の録音体験ができます。国立音大出身者を中心に集結し、各所で活躍する方々もソリストとして参加する総勢40名を超える特別編成の大編成のバンドです。

PCMレコーダー機器を持たない希望者には協賛企業の協力で貸出も行います。貴重な演奏会を是非お楽しみください。

富士ソフトアキバプラザ会場 7F 音のサロン



*写真は2011年の様子です

♪ 曲と組み合わせを楽しむ! 音のサロン

19^{Fri} 20^{Sat} 21^{Sun} 開催

開催場所:富士ソフトアキバプラザ 7F

毎回、満席状態となりドアが締まらない会場となった昨年の「音のサロン」。

オーディオマニアの期待に応えた、企業の枠を超えた「組み合わせの妙」を体験できた好評のイベント第2回です。各種のジャンルやソフトに合わせた試聴機が、素晴らしい時間を演出します。

「音のサロン」プログラム(予定)

開催日	時間	テーマ	講師	CD/SACD プレーヤー	アナログ プレーヤー (カートリッジ)	USB-DAC ネットワーク プレーヤー	アンプ(プリ)	アンプ(パワー)	スピーカー
10/19 (金)	1 11:00 ~ 12:00	最新最高音質の配信音楽を聴く(パート1)	e-onkyo	CEC CD3800	/	ONKYO DAC-1000	DENON PMA-1500SE		YAMAHA Soavo-1(BP)
	2 13:00 ~ 14:00	真空管アンプで アナログレコードのジャズの名演を聴く	伊藤八十八氏	/	LUXMAN PD-171 Accuphase AC-5	/	TRX-1 TRV-EQ3SE	TRX-M845	FOSTEX G2000
	3 15:00 ~ 16:00	Female Vocal(高橋真梨子・岩崎宏美) を聴く	株式会社エンタテインメント ピクチャーエンタテインメント	Marantz SA-11S3	LUXMAN PD-171 DENON DL-103	/	LUXMAN L-590AX		SPENDOR SP-100R2
	4 17:00 ~ 18:00	シャンソンとフランス文化の楽しみ	元FM Fan編集長 小林俊彦氏	CEC TL3N DA3N	LUXMAN PD-171 DENON DL-103	/	DENON PMA-SX		ECLIPSE TD510ZMK2
10/20 (土)	5 11:00 ~ 12:00	最新最高音質の配信音楽を聴く(パート2)	HQM Store	DENON DBP-1811UD	/	TEAC UD-501	LUXMAN L-590AX		FOSTEX G2000
	6 13:00 ~ 14:00	高音質CDから高音質音楽(HD-Sound) までの音質の進化	日本レコード協会 鈴木順三氏	Accuphase 準備中	/	Accuphase C-3800 A-65		KRIPTON KX-1000P	
	7 15:00 ~ 16:30	「1920年代に生まれた名出力管250プッシュプル・アンプ」で聴くWE594	新 忠篤氏	SONY SCD-XA5400ES	/	250プッシュプルアンプ		ウイスタンエレクトロ WE594	
	8 17:30 ~ 18:30	学生による楽しいクラシック・ディスクコンサート	クラシック音楽 愛好会	YAMAHA CD-S2000	/	Esoteric I-03		Dali EPICON 6	
10/21 (日)	9 11:00 ~ 13:00	最新PCオーディオ試聴会	/	/	/	ONKYO A-9000R		TANNOY Definition DC10T	
	10 14:00 ~ 16:00	価格帯別コンポの魅力を探る	麻倉怜士氏	別紙参照					

富士ソフトアキバプラザ会場



オーディオ専門誌
販売コーナー

19(Fri) 20(Sat) 21(Sun) 開催

開催場所：富士ソフトアキバプラザ

オーディオマニアのハートをくすぐる、新商品の話題や期待の技術が、評論家や専門誌の担当者によって伝えられる専門誌が、その場で購入できます。一部バックナンバーも揃えて販売されます。

秋葉原 UDX2F 特別室



ホームシアターがワクワク、感動体験
もっと良くなるあなたのホームシアター
ホームシアター体験会
～「ホームシアターミニセミナー in 音展」～

19(Fri) 20(Sat) 21(Sun) 開催

開催場所：秋葉原UDX 2F会場内 特別室

あなたのホームシアターはもっとよくなる！ワクワク・ドキドキの感動体験があなたを待っている！

会場マップ



2012年9月度 理事会報告

第9回運営会議報告

9月度理事会 議事

平成24年9月12日に9月理事会・第9回運営会議が理事14名、監事1名と2名の理事代理の方の出席のもと一般社団法人日本オーディオ協会で開催されました。

第1号議案 「新会員の承認を求める件」

平成24年6月7日の理事会以降平成24年9月11日までの間に入会申込のあった個人会員16名の入会が承認されました。

第2号議案「新役員の承認を求める件」

6月総会時は監事1名の体制でスタートしましたが、この度三菱電機株式会社の池本琢磨氏に経理・会計担当監事として就任していただくことが承認されました。

この結果、従来通り2名の監事の方に協会の運営を監査していただくことになりました。

尚新役員の正式な就任は来年の総会のときになります。

第9回運営会議 議事

(1) オーディオ・ホームシアター展について

10月19日から21日に秋葉原UDX、富士ソフトの2会場で開催されるオーディオ・ホームシアター展(音展)の最新状況が報告されました。

今年は昨年の75社を超える78社が参加し、展示や視聴室に加えて、各種セミナーやイベントの開催が計画されています。

特に日本オーディオ協会創立60周年を記念して「オーディオ歴史館」を富士ソフト7階で開催し、いろいろな歴史的な製品を展示する予定です。

皆様お誘い合わせてご来場ください。

(2) 創立60周年記念事業について

日本オーディオ協会創立60周年記念事業として記念誌、記念CDの作成や音展での「オーディオ歴史館」等いろいろな記念行事が計画されています。記念イベントは12月6日に音の日のイベントと同時に開催する予定です。

詳細は別途お知らせします。

(3) 各委員会活動について

新組織に基づく各委員会の活動について担当していただく理事の方にJASジャーナル9月号で紹介していただきましたので記事をご覧ください。

特に新しい委員会の「放送・通信等・新音源検討委員会」や「技術会議」等について今後の進め方について検討がなされました。